

密を避けられるレジャーとして新型コロナウイルス下で盛り上がりを見せるアウトドアブームを受け、屋外で手軽に食べられる食品の開発や販売が道内でも進んでいる。各社は道産素材を使って、少しぜいたくなレトルト食品や調味料、缶詰などを考案。新たな客層の掘り起こしにもつなげようと知恵を絞っている。 (麻植文佳)

手軽にぜいたくに レトルト、冷食…

アウトドア用食品続々



アイビック食品が立ち上げたアウトドア向けのブランド「DELBE」。カレーや炊き込みご飯のもとなどを取りそろえた

調味料やだしを受託製造を手掛けるアイビック食品(札幌)は4月下旬、屋外向けの食品を扱うブランド「DELBE(デルベ)」を立ち上げた。グループに釣具やアウトドア用品の店があることから昨春、一般客向けに屋外で手軽に食べられるレトルトカレーを販売。評判も上々で、調味料など商品の種類も増えたため、「外に出るべ」という北海道弁にかけたブランドをつくった。

カレーや調味料、メスティン(小型のアルミ製飯ごう)用の炊き込みご飯のもとなどをオンラインショップやアウトドアショップで扱っている。6月ごろには道産ツブのアヒーシヨ缶やバーベキューソースなども加え、約10種類とする予定。いずれも参考価格

は500〜900円前後。渡辺真人常務取締役営業本部長は「大きい具材や道産食材を使うなどぜいたくに仕上げた。新たな需要を取り込んでいきたい」と意気込む。コロナ禍で売り上げが落ち込んだ居酒屋も力を入れている。釧路市の「くし炉あぶり家」は昨年、キャンプ用の冷凍食品シリーズ「CAMP DE ROBATTA(キャンプ デ ロバタ)」を販売。道東産力キのアヒーシヨや、道東産ヤナギダコの炊き込みご飯のもとなどを1個1500円前後でオンラインショップなどで扱っている。居酒屋料理を冷凍で販売したところ好評だったため、冷凍キャンプ飯も開発した。江崎雄司料理長は「味付けもしており、簡単に食べられる」と胸を張る。

道内各社 新たな需要発掘へ知恵

アパ... 坂綱社... 趣味で... 品を扱... BO(ロ... 人気ユ... やじキ... 地元の... ーと三... クラウド... ト「マ... で販売... トで1... どで販... 社長は... 力肉を... 水産... 産(札幌... の一夜... いった... セット... タンエ... の2... 円)を... 販売... 副部長... 贈答用... つなが...